

第22回 NRO ユーザーズミーティング報告

7月27日～29日の3日間、野辺山宇宙電波観測所において第22回 NRO ユーザーズミーティングが開催されました。ALMA（アタカマミリ波サブミリ波干渉計）計画の予算が承認されて初めて、また国立天文台が法人化後初めてとなる今回は、100名を超える参加者があり、ポスター発表も60件を超え用意されているポスターボードをすべて使用しても足りなくなり壁にも掲示するなど、大盛況でした。特に大学院生など若い層の参加が多く、また、北海道や九州など遠方からも例年以上の参加があったことも印象的でした。

初日は午後から開始になりましたが、最初に45m望遠鏡とミリ波干渉計の装置や共同利用などに関する事業報告や電波天文専門委員会・電波天文周波数小委員会など各種委員会からの報告および所内観測の成果報告が行われました。

二日目にはALMA, VSOP2, VERA など関連計画の現状報告が行われました。ALMA ではついにALMA 建設予算が承認されたことと現状と今後の予定についての報告があり、その後の質疑では、部分運用の予定まであと3年ということで現実の利用がいよいよ見えてきたせいもあるのか、実際の運用の方針についてなどの質問が多かったようです。運用の方針では、現在のところ観測時間の割り当てを審議する委員会は日米欧各々がもつという可能性が高いとの報告がありましたが、まだ決定事項ではなく、今後の動向が注目されるところです。なお、ALMA 部分運用開始は遅れる可能性もあり、現存のどの干渉計より優れた装置になった時点で部分運用を開始する方針とのことなので、楽しみです。数年後にはALMA

ユーザーズミーティングが開催されることでしょう。

その後、野辺山宇宙電波観測所の将来についての議論が行われました。以下、簡単に議論の内容を紹介します。チリ・アタカマ砂漠に設置されたASTEについては、ASTEを運営する東大天文センターおよび野辺山とユーザーとの間で共同利用について意見交換が行われました。45m鏡も含めて限られたマンパワーで科学的な成果を上げていくにはどのような運用体制がよいのかということが主な論点となりました。ミリ波干渉計については、ALMAの部分運用開始に伴って共同利用が終了したあとの有効利用について議論が行われました。これらの議論の中で、今回注目されたのは、45m鏡の共同利用の改革に関して、特に現在検討し実現しようとしている教育支援枠の導入についてです。教育支援枠というのは、大学院生が45m鏡によって得られたデータを使って修士論文、博士論文を書くことを奨励するため、複数年にわたってある程度の観測時間を保証するという制度です。これは大学で電波天文の教室を運営する助けとなることも期待するものです。参加された大学関係の方々からは、この制度の導入を歓迎する意見が多く聞かれました。

なお、二日目の晩に行われた懇親会にも、ほとんどの方が参加されたいへん盛況だったこと、三日目には長期共同利用プロポーザル公聴会が行われたことも付記しておきます。

濤崎智佳（ぐんま天文台）
久野成夫・浅山信一郎（国立天文台）